

体験で子どもが変わる、地域が変わる 教育ファームの土俵づくり

地域に根ざした食育推進委員会中央委員
地域に根ざした食育コンクール審査委員
教育ファーム推進事業検討委員
子ども農山漁村交流プロジェクトアドバイザー

しんきん南信州地域研究所主席研究員
地域再生診療所所長 井上 弘司

0歳児から小学校の食育

授乳は新生児の食育

生まれて初めて口にするだけでなく、
母親との大事なコミュニケーション

3歳児までは家庭の食育

家庭の味を覚えさせましょう

幼保時代は身近な農産物に触れるチャンス

保育園は地域密着で給食室があることが多い。

園の栄養士の実力発揮の場となる。

体験と組み合わせて、子どもの食育

小学6年生までに地域の食育

地域の味を覚えさせましょう

地域の農産物を覚えさせる

地域で食育・子育て支援

地域行事で重箱の持ち寄りの復活



刻々と変化する小学生。明日は違う子どもたち



体験で子どもが変わる 親が変わる 先生が変わる。
そして指導者である農家が変わり 地域が変わり行政に変革
をもたらす。行政が仕掛けたことが、最終的に行政メリット
として必ず返ってくる。

事故は起きる

緊急対応のマニュアルを作ろう



食農教育のリーダー養成「南信州あぐり大学院」

食、農、文化、山里の暮らしを中心に、農山村の多様な資源を活かし、知識ではない知恵の教育と、エコやスローなライフスタイルを提案することを目的に農（ノ）キャンパスとして、内外の講師による座学と体験の学びの年間連続セミナーを行う。

「いただきます」の意味
おいしい環境保全
体験活動が学力向上の切り札
本来の山里の暮らしとは
農事と食文化
山里の仕事、遊びと環境



保育園出前講座(春)の一コマ

トラックにたくさんの荷物を乗せて農家の人が出てきた。「わー、すごい！何だろう？」と、興味津々の子ども達。

子どもたちに考えさせる

・ 5つのビニール袋の中から、粳はどれなのか探す。じーっと見て考えてから、迷いながらも「これかな？」と思うものを手にした。

質問

『お母さんが洗ってくれるご飯はどれ？』の問に「白いご飯！！」

『そう正解、これがお米なんだよ。色がちょっと茶色っぽいのは玄米で、この皮を剥くとお米ができるんだよ。粳を剥いた殻は粳殻』

米ぬかの話へ発展

・ 米糠は大根の漬物に使われていること。お米の栄養がたくさん入っていること。堆肥を作る時に米糠を入れると良い堆肥ができることを話す。

子どもの気づきに対して

その中に白色(もち米)と茶色(お米)の混ざったものに気がつく子ども。

・ 粳蒔きか田植えで混ざったことで、米作りは、真剣に大事にやらないと、こういう失敗も出ると話す

保護者からの連絡帳より

昔、おばあちゃんが米一粒には7人もの神様がいて、残さずご飯を食べなさいとよくおこられました。今の人といえは私も今の人なんですが、米というものにもう少し興味を持ってくれる親が出てくる子いいなと思います。

「あぐりの田んぼ」で地域の食育

「1粒のもみこちゃんから、大きくなっていねこさんになりました。一体何本になったでしょう」一緒に数えると11本に増えていました。

「この上にお米さんがつくんだよ。一体何粒つくとおもう？」子ども「10！」

「去年の年長さんが数えたときは1300粒、大体お茶碗1杯分出来るんだよ」

「お米は穂の何処にできると思う？」カッターで切り開き見せる。

「1粒のもみこさんから根が出て幼穂も出て来るんだよ。皆と同じお母さんのお腹から出て来るんだ」

「お母さんのお腹の中で栄養や血や骨や色々なものをもらって大きくなって出てきたんだ。だからお母さんは皆の事がとっても可愛いんだよ。お米もいねこさんのお腹の中にいるうちに例雨や風に負けないように強くなって出てきたんだよ。」

めだか田圃の近くで作った大麦を、大鍋で炒って麦茶づくり。

「パチパチ言ってる」「すごい匂い」「ポップコーンと同じ匂いだ」「ちょっとご飯の匂いがするよ」保育園の市販の麦茶と飲み比べて、

「色が違う。薄いなあ」「でも、おいしいよ」

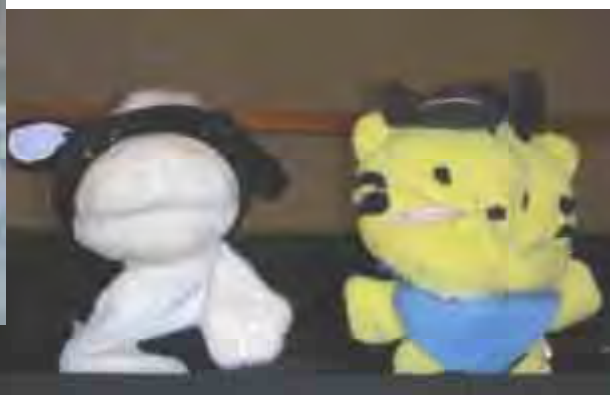
「保育園の方がいいな・・・」「こっち(手作り)の方がいいよ」と感想は様々。麦茶の中に混じっていた麦を食べてみている子もいました。

鼎・食育サークルもぐもぐ隊【飯田市】

みんなで元気に楽しく体験学習がんばり隊

公民館の講座から2005年に活動を開始。親子で農業や食の体験を行っている。その活動は、地元の農業高校生との交流や他地域の食育活動の支援や交流、他の子育てサークルをも巻き込んでいる。もぐもぐ隊に5人のキッズキッチンインストラクターも誕生し、他地域の保育園へ出前授業に行っている。

オリジナル食育人形劇団
「もぐもぐ座」の牛くん・トラくん



農業高校生たちに教わり料理づくり

直売所が教育ファームの核になる



育てて自分たちが食べるだけじゃ駄目だ。JAおよびファーム直売所の店長は、学校に出向き、作付け指導から販売指導を行っている。
JA指導員の力は大きい



保育園の食育現場から おいしいね地元の野菜

農業体験や地区内の農産物を使用した給食 で生産者との交流

保育園の畑での野菜作りと給食への利用

地域の農家で収穫体験

地元食材の日（園のある地区の農産物100%利用）



世代を超えてぬくもりのお裾分け



保育園園児と宅老所通所者の農業交流
社会資源をつなぐ地域保健福祉
世代交流・介護予防・リハビリ効果

保育園の食育現場から

生産者との交流から園に直売所ができた

私立あすなる乳児保育園（北方・育良町）
食育を保育の柱に、農村生活マイスターの
食材提供果樹・野菜中心に、夏祭り臨時直
売所から常設の小さな直売所へ



ご飯を中心とした日本型食生活を取り戻そう



竜丘地区の時又・竜丘保育園の取り組み
米作りは鼎みつば、殿岡、千代、千栄保育園
でも実施保育園の給食は週4回家庭で炊いた
ご飯を持参。保育園に通うようになって初め
てご飯を炊くようになった家庭も田植えから
ガラス鍋でご飯を炊いて食べる実践

人参を作って学校給食へ

農家の皆さんの指導、矢高調理場の協力
鍬を持つのが初めての子どもたちばかりですが、真
剣に取り組んでいます。収穫された人参は売ること
ができるようになりっぱなものができました。



地域の伝統野菜「小野子にんじん」をブランドに



地域でしかできないニンジン

採算が合わず作る人がいなくなっていた小野子ニンジン育て、収穫し、販売するまでの活動をしたいと子どもたち。

ところが学校の畑ではどうしてもできない。

地域の農家グループが、学校へ土を運び客土。

そして、ようやく人参ができた。

収穫したニンジンで実際に料理をしたり、宣伝効果を上げるために、ニンジンラベルの制作、イメージキャラクターの制作、大看板の制作、PR用の「小野子ニンジン」の歌を作成。



小野子ニンジン JAで販売

JAの直売所で試食係、販売係に分かれ、「小野子ニンジンの歌」も流し、店頭販売。今まで消費者の立場でしかなかった子ども達が、買ってもらう立場について考えるよいきっかけとなる。

獲れた魚はなあ...
大事な売りもんだ



教育ファームのためのツールを作ろう



これは長野県飯山市の作成したツールです

子どもたちにマンガで米づくりを理解してもらうためのものです。

りんご畑の不思議は、子どもが素直に感じる疑問に答えています。

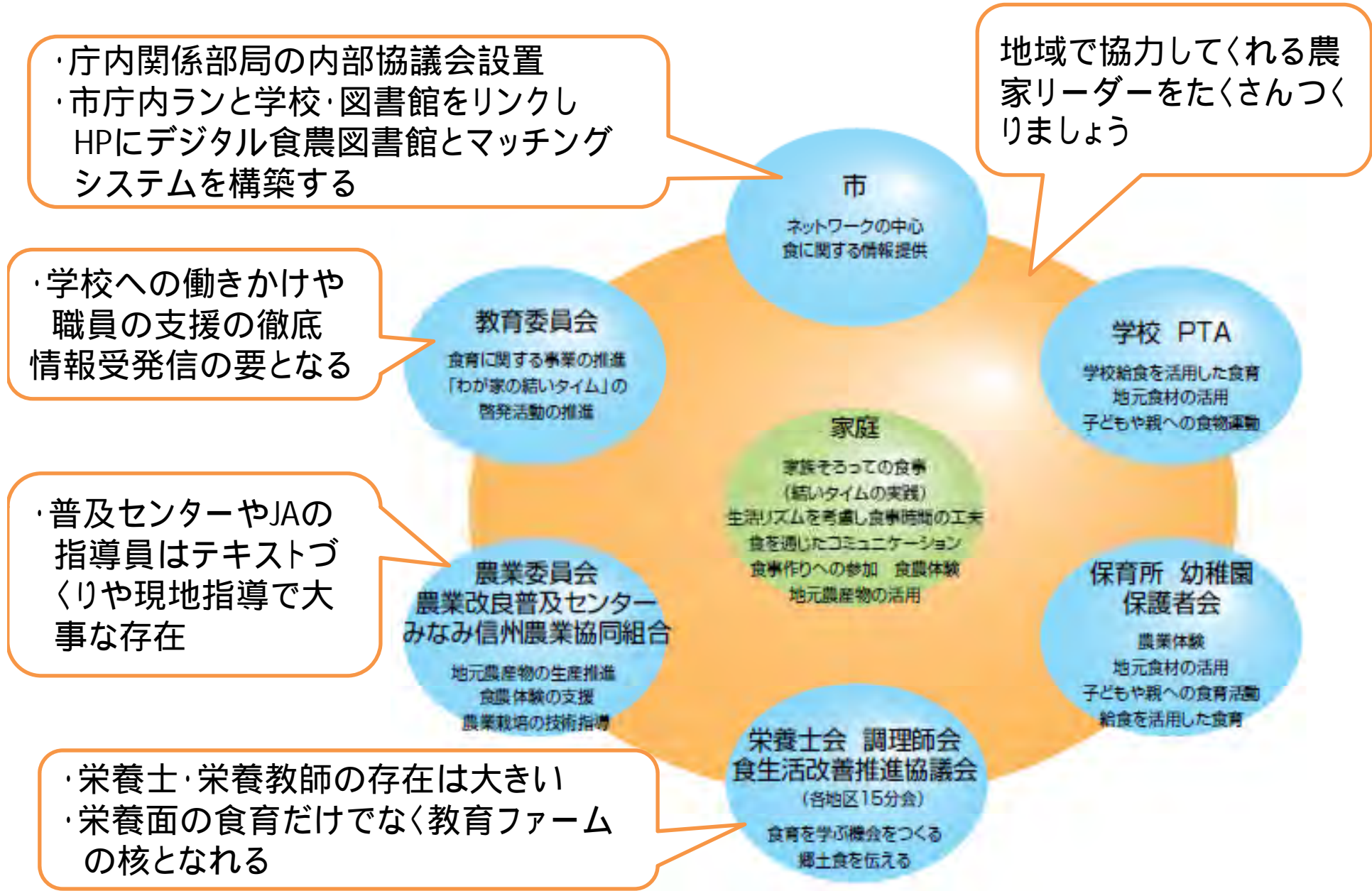
学校の教育ファームを支援するには、様々なツールを持つこと。体験と教科の関連性なども明確に公開することも先生への支援となります。



「食ごよみ」を作ろう

行事		行事食	食材
1月 睦月	1日 元旦 元旦の朝は当主が若水を汲み、それを湯かした朝一番のお茶と縁起物をいただく元旦くらは、女性の仕事を休んでねぎらう	福茶または蒲団め おせち料理 お雑煮	干し柿(種があるとお金がたまる) 豆、栗(ほめてくりくり) それぞれの家庭で工夫する もち、だいこん、里いも、豆腐、こんにゃく、糸こぶ、人参、ごぼうなど
	2日 すりぞめ 芋汁の祝は白湯を飲む(中気にならない)	芋汁・魚	長芋、青のり、 魚(圓い形めでいわしを煮つ)
	3日 買いぞめ お恵比寿開き	豆入りご飯・たい・貝の汁	小豆、米、鯛、貝
	6日朝 六日年	野菜、こぶの煮物・魚	だいこん、里いも、豆腐、 こんにゃく、糸こぶ、人参、ごぼう
	7日 おんべ(どんど焼き) 七草がゆ 前夜、神棚の前で唱えて切る	お餅 おかゆ・七草の汁 福元(福元・七草)と七草(七草)の湯と日本の湯と煮らぬうちに合わせて煮れば	米、七草(せり、なす、ごぼう、はこべら(はこべ)、ほとけのぼ、すずな(大根)、すずしろ(大根))
	11日 鏡開き	お供え餅のお雑煮、お汁粉	
	13日 小正月の餅つき		
	13~15日 小正月 おもの飾り 小正月のお飾り、まゆ玉作りと餅花作りは祝祭と節籠の製作を願って米の粉で作る	餅花・まゆ玉・柿玉・小判飾り	米の粉
	14日 お日待ち 20時で閉まって、日が出るまで飲み明かす	お赤飯・お頭付き魚	
	お年取り 15日 おかゆ なりそか きりそか 餅の製作を願う	野菜の煮物入り汁 どんど焼きで焼いた餅入りおかゆ	大正月と同じ
	16日 餓鬼(がき)の首 仕事を休む		
	20日 二十日正月(女の正月)	小正月の飾り物を食べる	餅花、まゆ玉

地域教育ファーム・ネットを作ろう



食育は次世代への架け橋。
環境や食を守り、子どもたちを育むことは
地域の未来を守ること。
あなたが行動することで、未来は変わります。
子孫たちが
おいしい空気や水、
心身に優しい農産物は、
日本人全員で力を合わせて作っている
と堂々と言える
日本になる夢を一緒に見ませんか。